

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0790200059		
法人名	医療法人社団 平成会		
事業所名	グループホーム「健康倶楽部家 鶴成館」		
所在地	福島県会津若松市門田町飯寺字村東305-6		
自己評価作成日	平成22年11月27日	評価結果市町村受理日	平成23年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成23年1月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

平成19年4月にオープンしてから、お客様に安心して過ごしていただけるよう心がけ、ご家族様にもクラブハウスに預けてよかったなと思っていただけるように努めています。お客様はグループホームという、小さな社会空間の中で、みんなが協力しあい職員と共に支えあって生活なされています。個々との関わりを大切に、メニューを書くことが役割だと思っている方には書いてもらい、食事の後片付けやゴミ捨てが役割だと思っている方にはお手伝いをお願いし、ADLの低下が見られる方にはリハビリを行い支援に努めています。同じ建物内に小規模・認知デイがあるため日常的にレクリエーションなどで交流を図ったりしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

1. 利用者一人ひとりに寄り添い傾聴しながら利用者を尊重した対応を行っている。また、日頃から家族とコミュニケーションがとられており、信頼関係が築かれている。
2. 事業所が品質管理のISOを取得し、職員の目標管理を行っていることから職員の資質向上につながっている。
3. マニュアルや記録様式、職員研修体制が法人の協力で整備されており、適切な事業運営につながっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中でその方らしく暮らしていけるよう、事業所独自の理念を作り、職員で共有し、事業所の職員会議や運営推進会議の議題などに取り入れ、話し合いの場で活用している。	昨年度、地域密着型サービスの意義を踏まえて事業所理念を見直した。職員会議の中で掘り下げて話しをしたり、見えるところに掲示しており、常に理念を意識しながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけた際に気軽にお声かけしたり、地区の盆踊りに参加したり、事業所の夏祭りの際は挨拶に回ったりしている。また、毎月広報を区長さんが届けてくださったりしている。	近所の方々と日常の散歩で言葉を交わしたり、おやつ作りや夏祭り・餅つき等の季節ごとの事業所の行事には地域からも参加があり交流を図っている。また、民謡、日本舞踊、アコーディオン演奏等のボランティアの訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所として地域のお役に立ちたいと思っているが、現在のところ取り組みまでは至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	会議の中で事業所の近況や予定、外部評価の報告をし、事業所に対する理解及び意見を頂き、事業所のサービス向上に努めている。	運営推進会議を定例化して開催している。会議では、事業所の現状と課題を報告し委員から意見を出してもらい、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員には運営推進会議に出席してもらい状況を伝えている。また、包括ケア会議に出席し、情報共有や収集に努めている。	市の担当者も参加する包括ケア会議で事業所の実情を伝えている。また、市の担当者から日常的に照会等の電話があり、事業所からの確認を行うなど、双方向で連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員と勉強会を行い、共通認識を図り、日常的に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内研修会で身体拘束のないケアについて意識の統一を図るとともに、日常のケアの中での言葉の拘束なども行っていないか確認しあいながら取り組んでいる。玄関の施錠は夜間のみである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員と勉強会を行い、高齢者虐待防止関連法について理解を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員と勉強会を行い、制度の理解を図っている。現在、制度を利用されている方の状況についてもお話ししている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、重要事項の説明をきちんと行い理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所に意見箱を設置したり、面会時や運営推進会議で気軽に意見を出してもらえるように促している。	事業所から家族に対して家族アンケート調査を行い、意見把握がされている。それをもとに職員で話し合い、運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所会議時、面接等で職員の意見を聞き、話し合い、サービスに活かしている。	日頃から職員が何でも言える雰囲気作りをしている。また、日常のケアや職員会議でも意見を出し合い、業務改善に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理を年2回おこない職員個々の努力や実績を確認している。職員のやりがいや質の向上のため、人材育成事業として、階層別研修を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や、認知症グループホーム協議会の研修会に、職員の段階に応じて受けられるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域包括支援センターで開催される包括ケア会議に出席したり、認知症グループホーム協議会の管理者会議に出席しネットワークづくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今年度は新しいお客様を迎えてはいるが、小規模をご利用されGHを申し込まれて方には、GHのお客様や職員と普段から関わる機会を持ち関係作りに努めており、昨年も同様な形でお客様を迎えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	小規模で待機されている方の家族が来所された際、見学してもらったり他の方の様子を見てもらって不安なことがないか伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった場合に急な利用を希望される方に対しては、満床であること、待機で待ってられる方がおられる方がいる事などお話し、必要と思われる他のサービス利用を紹介し、手続きの相談などをお手伝いしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や後片付けをお客様と共に行い、お客様を支えるだけでなく、職員もお客様に支えて頂き、暮らしを共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やお便りなどで日々の様子をお伝えしたり、面会の少ないご家族様にも、お客様の要望等により、面会に来て頂けるように積極的に調整に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方が訪ねてこられた際は、ゆっくり過ごして頂けるようお茶やお菓子をお出ししたりし、また来て頂けるように声かけしたりしている。	地区の盆踊りや町内の祭り見物、図書館に本を借りに出かけている。また、知人の訪問の際はゆっくり寛いでもらったり、年賀状のやり取りを行って、馴染みの人や場との関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知の進行にともなって行動障害がでてきたお客様に対して、お客様同士がトラブルのないよう気配りサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度は利用終了の方はまだおられないが、終了される方が今後あった場合は終了後の関係性も大切にしていきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様との日々の関わりや会話の中から、本人の思いを把握する事に努めたり、言葉や表情などから意向を把握するよう努めている。また、お客様会議を実施し希望を聞きだしている。	日々の関わりやお客さま会議で利用者の意向を把握するとともに、意思表示の困難な利用者については家族との話し合いや日常のケアを通して把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報や利用後も折りに触れ、ご家族・ご本人から話をききそれまでの生活歴などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行動や動作を日々の記録に残し、日々の状態や変化について状況を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望を聞いたり、日々の関わりの中での意見を、職員全員でカンファレンスし個別のケアプランを作成し、3ヶ月ごとの見直し、ニーズの変化があればその都度プランの見直しを行っている。センター方式の記入も進めている。	計画に沿った記録を基にモニタリングしカンファレンスで職員が意見を出し合い、利用者・家族の思いや利用者の身体状況に応じた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に気づきや変化を記入し、申し送りや情報の共有をし、カンファレンスに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診がご家族様対応だった方に対して、本人の状態やご家族様の状況、その時々発生するニーズに柔軟に対応し、施設対応だったり、同行したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望に応じて千羽鶴を長崎に送ったり、図書館に行ったり、慰問ボランティアを受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各個人それぞれまで受診されていた病院が希望のかかりつけ医になっており、通院介助の方には通院後の報告をきちんと行い、家族対応の方にも必要に応じて同行している。	職員や家族が同行し、入居前からのかかりつけ医で定期受診をしている。職員が同行した時は通院結果をその日のうちに家族へ報告し、家族が同行した時は事業所へ戻ったときに家族から確認している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル測定や日々の生活の中で体調の変化に気を配り、変化が見られた際は看護師・管理者に報告し対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度はお客様が健康に過ごされているため入院された方はいないが、入院した場合には病院の看護師・MSWと連絡をとり早期退院できるように連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人で重度化・看取り介護の方針を作成し入所時に説明している。重度化に伴う意向確認も行なっている。重度化してきているお客様に対しては家族・主治医と方向性についての話し合いをしている。	入居時に重度化・看取りの指針を説明し、利用者・家族の同意を得ている。同時に重度化した際の意向も確認している。重度化した際には、家族やかかりつけ医を交えて話し合い、関係者が方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを整備し、緊急時は隣の鶴成館ショートとの連携を図るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを周知徹底し、災害時の勉強・訓練を実施している。非常災害時の備蓄品の準備も行なっている。	年に2回総合避難訓練を実施し、その中で職員一人ひとりが夜間想定をして訓練しているが、近隣の職員が駆けつけた訓練となっている。運営推進会議の時に訓練をし、委員の参加も得られている。備蓄も準備されてある。	昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけられるよう、様々な想定避難訓練を数多く実施して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の声かけや会話、関わりの中でプライバシーを損ねることがないように、気をつけてケアにあたっている。	利用者一人ひとりに合わせた対応や言葉かけを心がけている。事業所内でプライバシーの保護に関する研修会を行っており、職員は理解して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や月に1回程度のお客様会議で、やりたいことや食べたい物をお聞きしたり、入浴の希望をとったりとなるべく自分で決められるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の時間の流れはあるが、寝る時間・起きる時間、日中の過ごし方など、一人ひとりのペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方にあった身だしなみに心がけ、外出時の服装などは楽しんでもらえるように取り組んでいる。本人の希望を聞きながら床屋にかかっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	お客様と職員と一緒に準備、食事、片付けを行ない、食べたい物をメニューに取り入れたり、食事が楽しめるように支援している。	お客様会議等で利用者が食べたいものを聞き献立に取り入れている。利用者と一緒に盛り付け、配膳、後片づけ等を行い、同じテーブルで会話しながら楽しく食事も摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックをし、記録している。必要に応じて食事形態の工夫をするなどして食事量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お客様の状態に合わせて、毎食後の口腔ケアの声かけをし必要な方には見守り・介助を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、時間を見計らったり、本人のサインにより誘導することで、できるだけトイレで排泄できるように支援している。	記録に基づき利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。また、排泄パターンや排泄サイン等を見ながらトイレへ誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、水分を多く取ってもらったり、便秘気味の方には起床時冷水や牛乳を飲んで頂いたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒む方への言葉かけ、タイミングの工夫をしたり、入浴剤を使用したりして楽しんで頂けるようにしている。	利用者一人ひとりの状態(好みや習慣)に合わせて入浴支援をしている。拒否する場合は声掛けのタイミング等を変えて取り組んでいる。ゆず湯や菖蒲湯そして入浴剤などを使いながら快適に入浴出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに合わせて休息して頂き、夜眠れない時等は職員と会話したり、飲み物を提供したりし、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに服薬一覧表をはさみ把握できるようにしてあり、薬変更時は看護師より注意点が申し送られる為、その後の申し送りをきちんと行い情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、片付け、掃除、洗濯たたみ、メニューかきなど一人ひとりに役割りを持って頂いている。レク、本読み、おやつ作りなどの楽しみごとの支援もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に行ったり、図書館や買い物に出かけたり、ペットショップなどの戸外に出かけられるように支援している。季節ごとに外出を企画しみんなで出かけている。	事業所の行事計画に沿って桜・アヤメ・ツツジ・紅葉見学、ブドウ狩り等の外出支援を行っている。また、日常的に散歩や買い物に出かけ気分転換の機会として活用している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理できる方には所持して頂き、ほしい物がある際は一緒に買い物に出かけたりし支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様などに自分で染めてもらった絵手紙をだしたりと交流に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間は毎日の清掃で清潔に努め、玄関・窓際・洗面台に季節の花を飾り、季節を感じていただけるようにしている。	利用者で作った季節の飾り付けや花を共有空間に飾り、季節感が感じられるよう工夫している。テーブル、椅子、ソファ等が配置され、利用者が思い思いの場所で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に一人になれる場所はない為、ご本人の居室にてゆっくりと好きなことをされて過ごされています。気の合う方々はソファにすわってテレビをゆっくり見られたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	ご本人が今まで使用なされていた、イス・机や位牌・写真などを持ち込まれ、安心して過ごせるよう支援しています。	利用者は使い慣れた椅子や机、テレビ、歩行器、遺影、などを持ち込んでいたり家族の写真などを飾っており、利用者にとって過ごしやすい部屋となっている。ベッド、クローゼット、エアコン等は各室に設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札をつけることで声かけにて自分の居室がわかったり、ペット柵の設置で立ち上がりがスムーズに行われている。		